> 教育

地域のリーダーを担う人材の育成 ～実践教育プログラムがスタート～

「3つのポリシー」とは？

ディプロマ・ポリシーとは、卒業認定・学位授与に関する方針、カリキュラム・ポリシーとは、教育研究課程の編成・実施に関する方針のこと。これらと、入学者受入れに関する方針であるアドミッション・ポリシーの3つのポリシーが、中央教育審議会がまとめた答申（「我が国の高等教育の将来像」平成17年1月28日）においてその必要性が強調された。

「教育を通して、学生に、より力強く、より豊かに生き抜くための「人間力」を身につけてもらうこと」を目標として、山形大学はこれまで「基盤教育」の導入やアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの明確化による学士課程全体の改善と充実などの教育改革に取り組んできました。

その教育改革の流れを受け、平成25年度から小白川キャンパスでは３学部共通の特別教育コース「実践教育プログラム」を開設しました。このプログラムは、グローバリゼーションに対応できる人材や、東北地方の地域再生を担うリーダーを育成するために、各学部の専門教育とは別に実施されるもので、海外留学を必須とし、グローバリゼーションに対応できる人材育成を目指す「グローバル・スタディーズコース」、長期のインターンシップなどを通して自治体行政、NPOや企業において活躍し、地域社会を担うリーダーを育成する「公共政策スタディーズコース」及び「企業活動スタディーズコース」が用意されています。

それぞれのコースが定員15～20名と少数精鋭で、留学やインターンシップなど実践経験の充実に加えて、授業でもワークショップや、社会で活躍するゲストを迎えての講演会など、体験型の学習機会を豊富に取り入れており、学部で体系的に学んだ専門知識の応用能力や課題発見・解決能力を兼ね備えた人材の育成を目指します。

理工学研究科フレックス大学院が博士課程教育リーディングプログラムに採択

科学研究費補助金配分金額（基盤研究Ｂ：化学分野）

（百万円）

1	東京工業大学（理工）	59.9
2	京都大学（工）	45.8
3	大阪大学（理）	45.0
4	山形大学（理工）	40.9
5	大阪大学（工）	40.2
6	京都大学（化学研）	35.5
7	群馬大学（工）	29.0
7	北海道大学（工）	29.0

（出典：週刊朝日「大学ランキング　2014年版」）

山形大学が世界に誇る有機エレクトロニクスの研究資源を利用し、その分野でグローバルに活躍するリーダーを育成するためのプログラム「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」の学生受け入れが平成25年度からスタートしました。

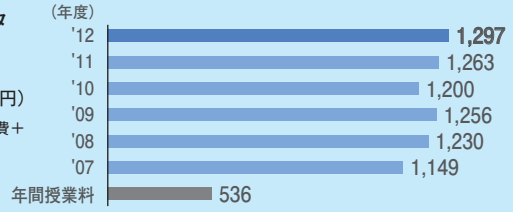
フレックス大学院の最大の特徴は、従来、前期２年・後期３年に分かれている博士課程を５年一貫にしたことで、途中で研究を中断したりすることがなくなり、さらに５年間の履修計画などもよりフレックスに組み立てられるようにしたことで、より効率的に学修・研究に専念できる環境づくりを実現しました。理工学研究科（工学系）に進学する全ての院生が受験可能です。

フレックス大学院の目的は、フロンティア有機材料システム分野を切り開く「価値創成グローバルリーダー」を育成することです。具体的には①高い問題意識と使命感、②高度な専門性、③複眼的思考と価値創成実践力、④グローバル企画コミュニケーション能力という４つの資質を併せ持った人材の育成です。定員は12名、優秀な学生を内外から集め、奨励金の支給や授業料及び寮費の補助など、最大限のバックアップの元にグローバルリーダーの育成を目指します。本プログラムは、日本学術振興会の「博士課程教育リーディングプログラム」に採択されております。全国から38件の申請があり、オンリーワン型として採択されたのは本学及び東京大学、千葉大学、秋田大学、長崎大学の５件のみでした。

教育に関するデータ

学生１人当たり教育経費*（千円）

*（教育経費＋教育研究支援経費＋教員人件費）／学生数



学生１人当たり図書*

624千円（118冊）

（参考）
昨年度623千円（118冊）

*図書／学生数

快挙！～在学生初、声楽の全国コンクールで第１位～

平成24年９月22日に開催された「第４回東京国際声楽コンクール」において、地域教育文化学部音楽芸術コースの３年生（当時）松浦恵さんが、大学生部門で１位の栄冠に輝きました！在学中の全国コンクール第１位は、同学部で初の快挙です。

松浦さんは、他大学の１年次までフルートを専攻していましたが、その後声楽への転向を決意、本学の地域教育文化学部音楽芸術コースに声楽専攻で入学を果たしました。

入学後、腕を磨いた松浦さんは、２年次に学生オペラ公演「コジ・ファン・トゥッテ」にてヒロインのドラベッラ役に抜擢され、見事にその大役を演じきりました。

その後、準備を重ね、初めてチャレンジした「東京国際声楽コンクール」で、いきなりの本選出場。ベッリーニ歌曲「美しいニーチェ」とドニゼッティのアリア「いとしいフェルナンド」の２曲で臨んだ本選では、44人にものぼる本戦出場者の中で、審査員８人中５人が１位採点という圧倒的な評価のもとに、栄えある第１位に輝きました。

松浦さんを指導する藤野祐一教授は「曲を歌うだけでなく、役柄に入れる才能がある。技術的には課題もあるが、音楽性、芸術性が評価された」と分析。「今後は試験や学生オペラ公演に全力で取り組み、いずれは沢山の観客に感動していただける歌手になれるよう、勉強を続けていきたい」と話す松浦さんが、世界のディーヴァ（歌姫）となる日も、もしかしたらそう遠くはないかもしれません。

ステージで歌声を披露する松浦さん

南極・昭和基地から、附属小・中学校生に向けて語りかける、鈴木毅「隊員」（写真右）

南極からのメッセージに熱心に耳を傾ける生徒たち

附属小学校で「南極教室」を開催

2012年10月12日（金）、附属小学校にて「南極教室」が開催され、附属小学校の６年生120人と、附属中学校の２年生40人が参加しました。

この「南極教室」は、本学職員(※)である鈴木毅さんが、第53次南極地域観測隊（越冬隊）に参加していたことがきっかけとなり、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所の主催により実現したものです。

附属小学校と約１万4000キロも離れている南極・昭和基地とを衛星回線で接続。はじめに、大型スクリーンに映し出された鈴木さんが生徒たちに対し、基地周辺の様子や日頃の仕事内容、食事などについて紹介。質問コーナーでは、「南極でシャボン玉は作れるか？」、「南極でスポーツはできるか？」などの疑問に対し、映像を交えて楽しく解説。初めて知る南極の様子に、生徒たちは目を輝かせていました。

今回の「南極教室」は、普段はテレビや映画の中でしか見ることができない南極をぐっと身近に知ることができ、南極観測の意義について理解を深める貴重な経験となりました。

※当時は文部科学省へ出向

「鈴木毅の南極通信」

山形大学ホームページでは、鈴木毅隊員の南極での活動の様子を公開しています。

詳細については、ホームページ右下のバナー

をクリックするとご覧いただけます。
(http://www.yamagata-u.ac.jp/jpn/yu/modules/common14/index.php?id=31)